

ですからね、ハハハ……

ビュロー（朗読）その翌年になつても、幼稚園禁止令は解かれなかつた。そして、フレイベル先生も、アメリカへは行かれなかつた。先生の御健康が、それをゆるぎなかつたのだ。ある日、ユリアーネからの手紙が届いた。

侍女（手紙）悲しいお知らせを致さねばなりません。六月二十一日、フレイベル先生はお亡くなりになりました。ほんの二月前、満七十才の御誕生日のお祝いに、子供たちの手

によつて月桂樹の冠をお飾られになつたのでしたが……。

先生は、ミツテンドルフ様と私とが、おみとりする間に、静かに安らかに、苦難の多かつた御生涯をお閉じになられたのでございます。

ビュロー（朗読）いまは、幼稚園禁止令も解かれた。先生のお言葉「いざやわれらをわれらが子供に生きしめよ」を刻んだ墓標の下で、先生はほ、えんでおられることであらう。私は、始めて先生の教えを伺つた時の、

あの先生の力強いお言葉を、いまもなお、ありありと耳に聞く思いがする。先生の予言は実現されたのだ。

フレイベル キンダー・ガルテン！これほど子供の学校にふさわしい名前がほかにあり得るでしょうか！ これから五年、十年……そのうちに、世界中の国々にキンダー・ガルテンが設けられるのです。そしてそのキンダー・ガルテンの門は、神の国に入る門となるのです。（おわり）

放送劇 『幼稚園の父フレイベル』 聴観記

倉 橋 惣 三

昭和二十六年六月二十四日午前。NHKから、『光を掲げた人々』の一つとして、『幼稚園の父フレイベル』が放送された。フレイベル百年記念行事の中に加えられたものである。資料提供の関係もあつて招かれたが、私としては、恐らく世界で初めてだと思つたフレイベルの劇化演出が是非観たかつたので、非常の喜びと期待とを以て、放送局に出かけた。NHKでは、二十一日、フレイベルの忌日、東大の宮原誠一君・東京都の教育指導主事山村きよ子・東京都文京区長井形夫人の三君と私との『幼児教育を省みて』という座談会で、日本の保育界の歴史と現状と共にフレイベルについて語る機会

を与えられた廿四日此の劇を放送されたのである。本年はフレイベル百年記念に因む種々の催が世界諸国に行われたこと、思うが、普波にのせて斯くの如く広く伝播された例は、我国だけではないかと思う。愉快の至りである。われらフレイベル学徒として、日本放送協会に深く感謝するものである。さて私は、第四スタヂオの演出者の傍に立つて、厚い硝子越しに、演出の場内を観たというか、聴いたというか、目と耳をこらして、三十分間を楽しんだ。スタヂオの大部分はオーケストラによつて埋められ、それと屏風で仕切られた一隅に、上から下げられているマイクホン、小卓の上におかれた

マイクロホン、この二つのマイクロホンを中心にして、次々に声の演技が進められてゆくのである。声の演技ではあるけれども、身のこなし顔の表情、手や足の軽い振りは、せりふにつれて行われる。殊に、相語りあう眼の動きは、柔かくも強くも真にせまる。それらの点は、テレビジョンの普遍していない今日、私の拙い筆ながら、こうして皆さんにお取りつきする他はない。前掲の台本を読まれるたしにもなつたら、おなぐさみである。

目の前に見えるは、リーベンスタインの丘の上である。私は、前日、フレールベル百年記念講演会(お茶の水女子大学講堂)で、フレールベル海跡巡礼中の一番深い思い出をこの丘に寄せた。その林縁の景色が、ありくくと目に浮ぶ。放送劇はイメーヂ劇である。しかも、こうして放送を観ていると、俳優の簡潔な仕草や巧みな擬音に描き出されて、そのイメーヂが一層まさしくとする。

遠く近く郭公の啼く声がある。遠くから馬車の近づいて来る響きする。馭者の鞭の音も聞える。

吊されたマイクを挟んで、いんぎんな馭者と上品なビュロー夫人との話が始まる。馭者はワイシヤツにズボン姿で、黒いベレー帽を被つている。小肥りなビュロー夫人は、品のいい、黒っぽい柄の薄地のワンピースを着て、丘の上の空気の爽かさを喜んでいる面もちである。(私はビュロー夫人の写真を見たこともない。しかしその著書「フレールベル油憶録」を評して、予て心に描いている姿、気分は、この東山千栄子によつて、そのまゝに表現されている。この女優には、他の役柄の舞台姿を見たことがあるだけで、素顔を見たのは始めてであるが、ベルリンの貴族の夫人であり、フォンと敬称される、マレンホルツ・ビュローその人を、始めてこゝで見

ような気がする。実に満役である。東恵美子の侍女ユリアーネは、品位高いビュロー夫人に配して極めてつましやかに、又チャームングである。こぼれるような愛嬌で、夫人の言葉に受け答えする可憐さが、二人のスターのふけ役の間を彩る。びろうどのような緑の草、こんもり茂つた森、その美しい景色の彼方に、里の子供が一人の老人を中心に輪をつくつて遊んでいるのを、ユリアーネが見つける。馭者が「ハハハ……馬鹿お爺さんでござえますよ」という。

——これがフレールベルの最大の理解者であり、尊崇者であり、後援者であり、先づ自国へ、次に英国へ、それから世界へ、フレールベル主義の大宣伝者となつた、マレンホルツ・フォン・ビュロー夫人がフレールベルを見た初めである。郭公は盛んに啼き続けている。舞台劇ならばシーンが変わるところである。声劇ではシーンはずべてイマジネーションに委ねる。こゝはフレールベルの住いの場である。さ、やかな百姓屋の一室、住居と教室とをあわせて乱雑な光景よろしく、この想像はできるだけ一切の裝飾を制限しなくてはならぬ。戸口の方にノックの音が聞える。ビュロー夫人の訪問である。「お、これは……」

台本を手にして立つている、青山杉作のフレールベルの声は、洪く落ちついている。

これが、ビュロー夫人とフレールベルとの最初の邂逅舞台用語でいえば、二優の出あいである。と同時に、私がフレールベルの姿というものを画面以外に見た最初である。白のワイシヤツに薄風色のズボンをはいた身なりは、写真や画中(寺内万治郎画伯に描いて貰つた)のフレールベルの黒い、長めなコートとは一つでないが、そんなことは、どうでもいい。広い前額から、油気もなく後ろにかき上げた長髪、少し前かがみに、ビュロー夫人を迎える長身、それよ

りも、頬の細い、クラブレデの分類による思想的性格型の顔、……私は思わず、傍に在る作者の寺田氏を顧みて、『そっくり』といった。フレibelは客人に椅子をすゝめて、自分も静かに座についた。と私のイメージが見た。

両者の品のいい、会話（台本の通り）が暫く続いた頃、再びノックの音がした。川上夏代の母親が、子供のフリッツを連れて来たのである。渡辺少年のフリッツは、フリッツそのものかと思われる質実可憐な顔立である。まだセリフに入らない前から、顔をしかめて泣いている。後ろに一人の少年が附添うている。これは真の附添いで、劇には関係はない。

フリッツが泣き声で『先生』と呼んだ。フレibelの顔が一段とやさしくなる。

フレibelとフリッツの母親との会話から、感激に溢れたビュロー夫人とフレibelとの会話に再びかえつたところへ、またノックの音がする。ユリアーネの明るい顔がビュロー夫人に、目をみはりながら近づく。夫人の命によつて、フレibelの保母養成所に残ることになるのである。

こゝでシーンが変わる。幼稚園令禁止の政令に驚いて、ベルリンから馳つけたビュロー夫人の思つかい、沈痛なフレibelのおももち、……オーケストラ静かに暮というところである。丁度十時。

私達はロツビーに出た。立話の間にも、フレibel先生、ビュロー夫人、とよびかけそうになる。アフター、イメージが眼に残る。私は寺内画伯作のあの「リーベンスタインのフレibel」の絵の複製を、きょうの記念に送ることを山氏に約して、放し会館を出た。外は日曜日午さがりの新橋に近い大通りの雑沓であるが、私の車はイメージのリーベンスタインの森に沿って走る。

(六月二十五日)

フレibel研究のために

長田新著
フレibelに還れ B6判三三三頁
 凡そ幼稚園教育の真精神は、基督の真精神がキリストのといた教に、そして佛の真精神が釈迦のといた教にかえるように、フレibelその人のといた教にかえるのでなくしては決して把握出づるものではない。この信念が奔出してこの書をなすに至つた。(著者序文より)

莊司雅子著
フレibelの教育學
 A5判上製四五〇頁 定価四〇〇円千三五円
 人類教育の全史中最も深遠難解であるとされるフレibelの教育思想を最も端的に解明せるもの。

幼児の教育 (第五十巻・第六号)
『フレibel百年記念第一特集号』
 ○フレibel百年譜
 ○フレibel百年記念特集号に序して
 日本に於けるフレibel研究を編る

- 内容
- フレibel教育の根本問題 惣三
 - フレibelの幼児教育論 長田新
 - アメリカに於けるフレibel運動 浩志
 - フレibelの生涯 津守真
- 講義希望の方は送料共金五十八円を添え注文下さい。

東京都千代田区神田神保町2-4 振替東京19640番

株式会社 フレibel館